

# アンナブルナ農園通信

熊本県菊池市原木護 4490 Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206

新緑の眩しい季節になりました。石楠花やつづじが咲き、やさしい風に藤の花が揺れています。みなさまいかがお過ごしでしょうか。地震の被害に遭われた方も多いと思われます。心からお見舞い申しあげます。また私たちにもたくさんのお見舞いと、温かい励ましのお言葉をいただきました。ありがとうございました。お礼申しあげます。

がどうございました。お礼申しあげます。

お陰さまで農園は無事で農作業に励んでいます。今日は遅れた稻の種蒔きです。苗代を作っています。農園では去年から仕事を娘夫婦に譲つて世代交代を図ろうと話してきました。夫はすでに農園を離れ、上木護の廃村を修復して住んでいます。

熊本市内で「アンナブルナ農園レストラン」をやっていた頃から過疎地の田畠を手に入れ、道を造り、水道を引き、家を建て、農的な暮らしを創つてきました。豊かな社会が行き詰まり、壊れてしまつても生きていけるように、という思いがありました。

そしていま原発が壊れ、経済が壊れ、平和が脅かされた時代になりました。これまで準備をしてきたのですが、これからはこの基盤の上に新しい時代が新しい時代を築いてゆくことになるのでしょうか。そこで木護集落の農園と、上木護の廃村と、その間に一本の広葉樹を植林した森を含む新しい村の名前が必要だね、とみんなで話し合つてきました。ある朝、娘のラビが窓を開けたら、花がいっぱい咲いて、小鳥たちが飛んでいて、ああ花鳥農園だな、と名前はみんなの心にうつくしく響きました。

お茶の発売元がアンナブルナ農園から花鳥村になります。またパッケージは現在のものがなくなつてか

\* \* \*

ら新しいデザインに変わります。

地震で壊れたのは人間が作ったものばかりでした。地震は生きるようになります。お茶の春の土(母)たねどんでも巡る宇宙の春の土(娘)

いぐいすも花鳥村を言祝ぎぬ  
（正木千津子）

草も木も花も変わりありません。搖れが激しかったときは小鳥たちも息をひそめているようでしたが、いまは元気に飛び交っています。お茶の新芽も雨や霧にはぐくまれて生き生きと伸びています。おいし

が咲き、やさしい風に藤の花が揺れています。みなさまいかがお過ごしでしょうか。地震の被害に遭われた方も多いと思われます。心からお見舞い申しあげます。また私たちにもたくさんのお見舞いと、温かい励ましのお言葉をいただきました。ありがとうございました。お礼申しあげます。

お陰さまで農園は無事で農作業に励んでいます。今日は遅れた稻の種蒔きです。苗代を作っています。農園では去年から仕事を娘夫婦に譲つて世代交代を図ろうと話してきました。夫はすでに農園を離れ、上木護の廃村を修復して住んでいます。

熊本市内で「アンナブルナ農園レストラン」をやっていた頃から過疎地の田畠を手に入れ、道を造り、水道を引き、家を建て、農的な暮らしを創つてきました。豊かな社会が行き詰まり、壊れてしまつても生きていけるように、という思いがありました。

そしていま原発が壊れ、経済が壊れ、平和が脅かされた時代になりました。これまで準備をしてきたのですが、これからはこの基盤の上に新しい時代が新しい時代を築いてゆくことになるのでしょうか。そこで木護集落の農園と、上木護の廃村と、その間に一本の広葉樹を植林した森を含む新しい村の名前が必要だね、とみんなで話し合つてきました。ある朝、娘のラビが窓を開けたら、花がいっぱい咲いて、小鳥たちが飛んでいて、ああ花鳥農園だな、と名前はみんなの心にうつくしく響きました。

そんなわけで永年親しまれてきた「アンナブルナ農園」のお茶は、今年から「花鳥村」のお茶と名前が変わることになりました。中身はもちろん同じで、名前だけが変わります。アンナブルナ農園通信も、これから花鳥村通信に名前が変わります。花鳥村の初句会をやりました。

けれどここは、家族が生活する農園だけでなく、もっと多くの人が住む村になる。そこで新しく誕生する村の名前を「花鳥村」にしよう、ということになりました。これからの大変な時代を乗り切つて、人々がつながつて暮らす必要があります。花鳥村がそんな場所になればいいなと思います。

花鳥村もきっと新たな時代を乗り切つて、人々がつながつて暮らす必要があります。花鳥村がそんな場所になればいいなと思います。

## [花鳥神社]

道を歩いていたら振り袖姿の姉妹がいた。案内されてゆくと、家は神社の社務所のような簡素で高雅なたたずまいの純日本家屋だった。

広い玄関に入ると八畳ほどの入口の間の奥に広々とした座敷があり、障子を開け放った廊下の先に枝ぶりのよい松が見える。座敷には大きな座卓がおかれて、着物を召したお母さんが正座しておられた。部屋は澄んだ明るさと心地よい清々しさにみちている。そのただならぬ不思議さに「ここはどこですか」と尋ねると、お母さんは机上の半紙に毛筆でさらさらと《花鳥神社》と書いて、「やすくに神社です」といわれた。

むかし見たその夢が深く印象に刻まれたのは、《花鳥》と書いて《やすくに》と読んだことに心が惹かれたからだった。

《やすくに》とは国語の平和である。

平和とは何によって護られるものだろう？

軍隊だろうか？ 花や鳥だろうか？

軍隊が守る平和と、花や鳥に護られる平和と、どちらがほんとうの平和だろうか？

## [花鳥山]

阿蘇山の北西、外輪山に連なる高原にアンナブルナ農園はある。隣接する国有地に約一万本植林した広葉樹はもう小さな森になっている。私たちが花鳥山と呼んできたその森の500m程先に上木護の廃村がある。

美しい水が湧いている。

むかし5戸の農家があった。

村人が離農したあと、キャンプ場になった。眺めのよい南向きの緩斜面に古民家を活かして、パンガローやメインホールが建てられた。家は大小10軒。経営者が亡くなつてから10年間、村は放置され荒れ果てていた。

水源をまもるためにその廃村を購入した。

ここを福島の子供たちの保養の村にできないだろうか？……小さな図書館をつくって……。そんな思いが泉の水のように湧いた。いま私はその「ふくしま文庫」で暮らしている。

## [花鳥村]

農園では世代交代が実現して、経営主体が娘夫婦になった。これで妻は晴れて隠居できる。

そこでアンナブルナ農園と花鳥山と上木護を合わせた新しい村の名前が必要だね、と話し合っていた。ある日ラビが、「朝、窓を開けたら、花がいっぱい咲いてて、小鳥がいっぱいいたの。ハナトリって、きれいじゃない？」といった。

花鳥村……名前が決った。

農園が世代交代するだけじゃなく、家族を超えた、新しい村が誕生した。これからお茶は、花鳥村のお茶として販売することになる。

## [避難所]

地震は晴天の霹靂というわけではなかった。

今年は大崩壊の年になると悟悟していました。

先日おいでになつた若杉友子さんが「明日があると思うな」と何度も繰返されていた。

これはまだ始まりにすぎないと思う。この秋からほんとうに厳しい時代がやってくる。

誰もいない実家の仏壇がひっくり返っていた。起こして手を合わせたら、中から声がした。

——いま地震がきたら、どうする？

——はい、ケイタイ持って、避難所へ逃げます。

——いかん、仏壇はどうする？

——あ、忘れてました、持つて逃げます！

——そうではない、ここへ逃げるのだ。

この奥にほんとうの避難所がある。

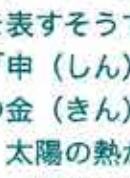
## [花鳥村誕生祭]

その日の午後、妻と私は熊本空港からソウルへ飛んでいた。地震のニュースを聞いたのは翌朝のことだった。急いで帰ろうかと考えたが、交通も途絶えているようなので、仕方なく講演のスケジュールをこなし続けた。

この秋の10月14、15、16日に花鳥村でやや大きな誕生祭を開こうと計画している。韓国からもたくさん的人が参加してくださるという。

中国からも参加申込みがあった。福島や東北の友人たちも来て、共に『生命平和な東アジア』

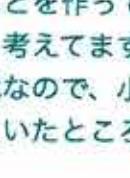
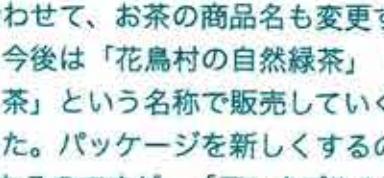
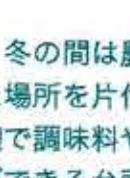
のヴィジョンを語り合いましょう。(正木高志)



# 花鳥通信

〒861-1441

熊本県菊池市原木護 4490 Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206



## 世代交代

まばゆい黄色で庭を明るくしていた蓮華ツヅジと白い久留米ツヅジは咲き終えて、薄桃色の日本シャクナゲの花が満開になりました。八十八夜が過ぎて立夏に入り、ここ数日は雨が続っています。茶摘みを前にお茶の葉っぱたちはぐんぐんうれしそうに育っています。

今年は丙の申年です。干支で60年に一度の巡りの年なので戦後では2度目です。丙(ひのえ)は火の兄(え)で「かまどの火の燃える様」を表すそうです。申は猿ではなく「伸びる」の「申(しん)」の意味で、陰陽五行説では大地の金(きん)に当たり、火と金がぶつかる。

太陽の熱が激しくなり大地を伸ばしているの

で、地球全体の火山活動が活発になるらしいです。それに伴い何か大変な災いや動乱が起きる年になると言われます。そう言われれば60年前、僕が生まれる前日9月10日に故郷の富山県魚津市で大火があったことを思い出しました。

冬の間は農具納屋の奥にある納戸となつていて場所を片付けていました。麹を作り、できた麹で調味料や発酵料理を作ったり、食品の加工ができる台所＆工房にしようと思っています。かまどを作つて薪を焚いて土鍋でご飯を炊きたいと考えています。明日はどうなるかわからない時代なので、小さな暮らしを始めたねと準備していたところに地震がきました。

幸いにも家は倒れないで済みました。地震に強いとされるログハウスの効果があったのかもしれません。でもしあと1分ほど揺れが続いたら無理だったろうと思います。

夜でした。揺れが止つてすぐに、ラビと必要な物を車に積んで農具納屋前の畑の脇に停めてあったキャンピングカーに避難しました。必要なものは少しでした。農園で作ったお米とお茶と味噌と梅干し。それと、塩と食器を少し。

山の中でさえも停電になると昼も夜も全く静かになっていました。静かな山で昼は野草を摘みました。タケノコとサンショウとフキとミツバ。ラビが野草弁当を作つて被害があつた友達のところに持つて行こうと言いました。たくさん摘みました。

地震が起きてから今まで農園の安否を心配される連絡をたくさんいただきました。ありがとうございます。しばらく車に避難していましたため電話に出れなかつたり、停電による節電でメールへの返信も遅れてしまつました。さらに農園のホームページの方も修繕中で更新できていない時でしたのでご心配をおかけしました。大変申し訳なく思つております。

また、支援の連絡もいただき、深く感謝しております。

農作業を引き継いで3年を過ぎましたが、今年からはお茶の販売も世代交代し、オトラビがやっていくことになりました。

それに合わせて、お茶の商品名も変更することになり、今後は「花鳥村の自然緑茶」「花鳥村のほうじ茶」という名称で販売していくことになりました。パッケージを新しくするのはもう少し後になるのですが、「アンナブルナ農園」という農園名ではなく、「アンナブルナ農園」もある新しい「花鳥村」の賜物として呼んでいくことにしました。

馴染んでいただけるまでには時間がかかるとは思いますが「花鳥村のお茶」として新しい商品も出しながら、これまで賜ったご支援とお力添えに加えて、なお一層親しんでいただける様頑張っていきたいと思います。今後とも末永い見守りとご指導をよろしくお願いします。

(オト)



## 世代交代

まばゆい黄色で庭を明るくしていた蓮華ツヅジと白い久留米ツヅジは咲き終えて、薄桃色の日本シャクナゲの花が満開になりました。八十八夜が過ぎて立夏に入り、ここ数日は雨が続っています。茶摘みを前にお茶の葉っぱたちはぐんぐんうれしそうに育っています。

今年は丙の申年です。干支で60年に一度の巡りの年なので戦後では2度目です。丙(ひのえ)は火の兄(え)で「かまどの火の燃える様」を表すそうです。申は猿ではなく「伸びる」の「申(しん)」の意味で、陰陽五行説では大地の金(きん)に当たり、火と金がぶつかる。

太陽の熱が激しくなり大地を伸ばしているの

で、地球全体の火山活動が活発になるらしいです。それに伴い何か大変な災いや動乱が起きる年になると言われます。そう言われれば60年前、僕が生まれる前日9月10日に故郷の富山県魚津市で大火があったことを思い出しました。

冬の間は農具納屋の奥にある納戸となつていて場所を片付けていました。麹を作り、できた麹で調味料や発酵料理を作ったり、食品の加工ができる台所＆工房にしようと思っています。かまどを作つて薪を焚いて土鍋でご飯を炊きたいと考えています。明日はどうなるかわからない時代なので、小さな暮らしを始めたねと準備していたところに地震がきました。

幸いにも家は倒れないで済みました。地震に強いとされるログハウスの効果があったのかもしれません。でもしあと1分ほど揺れが続いたら無理だったろうと思います。

夜でした。揺れが止つてすぐに、ラビと必要な物を車に積んで農具納屋前の畑の脇に停めて

あったキャンピングカーに避難しました。必要なものは少しでした。農園で作ったお米とお茶と味噌と梅干し。それと、塩と食器を少し。

山の中でさえも停電になると昼も夜も全く静かになつていました。静かな山で昼は野草を摘みました。タケノコとサンショウとフキとミツバ。ラビが野草弁当を作つて被害があつた友達のところに持つて行こうと言いました。たくさん摘みました。

地震が起きてから今まで農園の安否を心配される連絡をたくさんいただきました。ありがとうございます。しばらく車に避難していましたため電話に出れなかつたり、停電による節電でメールへの返信も遅れてしまつました。さらに農園のホームページの方も修繕中で更新できていない時でしたのでご心配をおかけしました。大変申し訳なく思つております。

また、支援の連絡もいただき、深く感謝しております。

農作業を引き継いで3年を過ぎましたが、今年からはお茶の販売も世代交代し、オトラビがやっていくことになりました。

それに合わせて、お茶の商品名も変更することになりました。パッケージを新しくするのはもう少し後になるのですが、「アンナブルナ農園」という農園名ではなく、「アンナブルナ農園」もある新しい「花鳥村」の賜物として呼んでいくことにしました。

馴染んでいただけるまでには時間がかかるとは思いますが「花鳥村のお茶」として新しい商品も出しながら、これまで賜ったご支援とお力添えに加えて、なお一層親しんでいただける様頑張っていきたいと思います。今後とも末永い見守りとご指導をよろしくお願いします。

(オト)



## 世代交代

まばゆい黄色で庭を明るくしていた蓮華ツヅジと白い久留米ツヅジは咲き終えて、薄桃色の日本シャクナゲの花が満開になりました。八十八夜が過ぎて立夏に入り、ここ数日は雨が続っています。茶摘みを前にお茶の葉っぱたちはぐんぐんうれしそうに育っています。

今年は丙の申年です。干支で60年に一度の巡りの年なので戦後では2度目です。丙(ひのえ)は火の兄(え)で「かまどの火の燃える様」を表すそうです。申は猿ではなく「伸びる」の「申(しん)」の意味で、陰陽五行説では大地の金(きん)に当たり、火と金がぶつかる。

太陽の熱が激しくなり大地を伸ばしているの